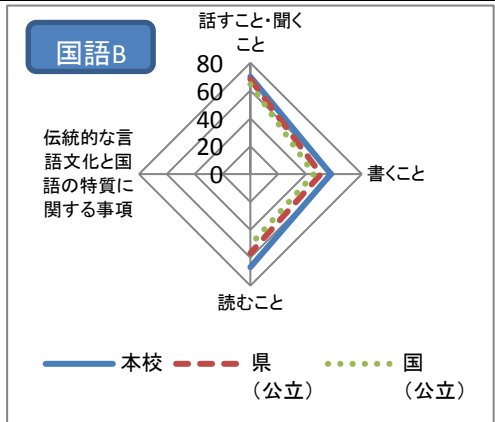
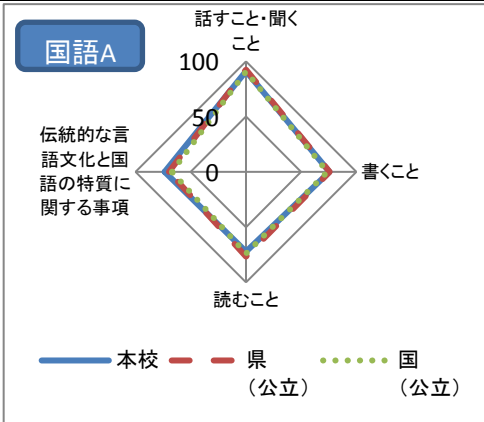


平成30年度 指導方法等の改善計画について【国語】

海田南小 学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率(A:本校75%, 県73%, 国70.7% B:本校63%, 県59%, 国54.7%)

本年度の結果について



- ・基本的な内容について繰り返し習熟を図った結果、A問題における無解答率は0%、30%未満の児童は1.0%だった。
- ・日常の授業において、理由を明確にして話したり書いたりする活動を継続的に取り組んだ結果、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく問題【B3二】では正答率が81.1%で、全国平均(52.3%)及び県平均(60.5%)を20ポイント以上上回った。一方で、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く問題【B2(2)】では、全国平均(13.5%)及び県平均(18.9%)は上回ったものの正答率は22.2%に留まった。
- ・相手や目的に応じ、伝えたいことが伝わるように文章を書くために、主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く問題【A5】では、全国平均(35.5%)及び県平均(39.0%)は上回ったものの正答率は44.4%に留まった。

重点課題

【課題1】
相手や目的に応じ、伝えたいことが伝わるように文章を書くために、主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書くこと。(正答率44.4%)

【課題2】
問題に提示された文章の中から大切な内容を取り上げ、理由を明確にして相手に伝わるように詳しく書くこと。(正答率22.2%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

国語科の教科書にある「手引き(言葉)」を活用して、相手や目的に応じて、伝えたいことが伝わる文章を適切に書く活動をぐんぐんタイムで取り組む。

子ども新聞を活用して、多様な文章を読む活動に取り組む。そして、子ども新聞を読んだ後に、大切な内容や自分の考え、根拠を明確に書く活動を継続的に行う。

全校での目標(キャッチフレーズ)

読もう! 書こう!
(手引きや新聞を使って)

平成31年度 全国学力・学習状況調査 数値目標

県平均+3P

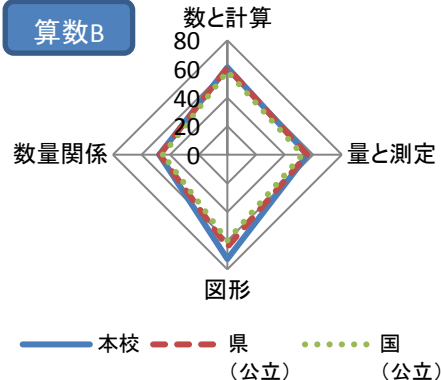
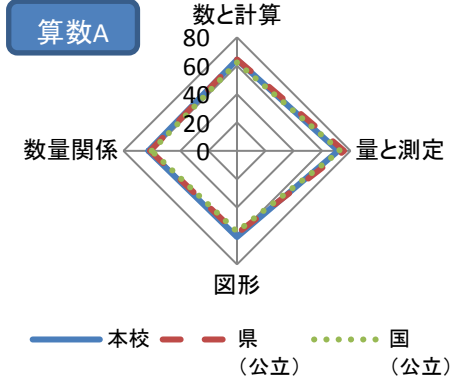
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	5年 町学力調査過去問題	全学年 町学力調査過去問題		5年 町学力調査過去問題	全学年 CRT学力調査	4年・基礎・基本定着状況調査過去問題 5年・全国学力・学習状況調査過去問題	
目標値	通過率50%	通過率55%		通過率60%	町平均+1P	通過率65%	
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	5年 町学力調査過去問題	全学年 町学力調査過去問題		5年 町学力調査過去問題	全学年 CRT学力調査	4年・基礎・基本定着状況調査過去問題 5年・全国学力・学習状況調査過去問題	
目標値	通過率50%	通過率55%		通過率60%	町平均+1P	通過率65%	
実施後数値							

平成30年度 指導方法等の改善計画について【算数】

海田南小 学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率(A:本校66%, 県66%, 国63.5% B:本校56%, 県54%, 国51.5%)

本年度の結果について



- ・日常生活の事象を図形の構成要素や性質を基に観察し、図形を判断したり、事柄が成り立つことを論理的に考察し、数学的に表現したりする問題【B1】では、(1)の正答率は86.7%(全国71.7%・県75.1%)であり、(2)の正答率は58.9%(全国48.2%・県53.7%)で、いずれも平均を上回った。これは、算数科の授業での図形の敷き詰め活動を通して、敷き詰められる理由を体験的に学習した結果であると考えられる。
- ・B問題における正答率30%未満の児童が23.3%いる。計算の意味理解と計算力、算数用語、十進位取記数法の仕組みの理解など基礎的な学習内容が定着しきれていない。
- ・単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解しているかどうかを見取る問題【A4(2)】では正答率40.0%で、全国平均(50.1%)や県平均(52.1%)を10ポイント以上下回った。
- ・一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを適切に判断することができるかどうかを見る問題【B3(2)】では、正答率22.2%(全国23.9%・県24.7%)で、平均を若干下回っている。

重点課題

- 【課題1】
単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味理解では、除法の式の商が何を表しているのかを明確にすること。(正答率40.0%)
- 【課題2】
メモの情報と棒グラフや帯グラフを関連付けて考え、グラフの総数や変化に着目して条件に合った情報を読み取ること。(正答率22.2%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

数直線図をかき、数量関係を把握させるとともに、図の中で1あたりの大きさ(単位量)がどこになるのかや式が何を表しているかを明確にして説明させる。

グラフから分かること(根拠)を明確にして説明したり言葉で書いたりする活動を仕組む。
発展問題として、逆思考や情報過多・情報不足の問題に取り組む(ぐんぐんタイム)。

全校での目標(キャッチフレーズ)

この「1」なあに？
理由セットで！

平成31年度 全国学力・学習状況調査 数値目標
県平均+3P

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	5年 町学力調査過去問題	全学年 町学力調査過去問題		5年 町学力調査過去問題	全学年 CRT学力調査	4年・基礎・基本定着状況調査過去問題 5年・全国学力・学習状況調査過去問題	
目標値	通過率50%	通過率55%		通過率60%	町平均+1P	通過率65%	
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	5年 町学力調査過去問題	全学年 町学力調査過去問題		5年 町学力調査過去問題	全学年 CRT学力調査	4年・基礎・基本定着状況調査過去問題 5年・全国学力・学習状況調査過去問題	
目標値	通過率50%	通過率55%		通過率60%	町平均+1P	通過率65%	
実施後数値							

平成30年度 指導方法等の改善計画について【理科】

海田南小 学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率(本校69%, 県63%, 国60.3%)	本年度の結果について
<p>理科</p> <p>物質</p> <p>エネルギー</p> <p>地球</p> <p>生命</p> <p>— 本校 — 県(公立) — 国(公立)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の基礎・基本定着状況調査の課題であった「予想や仮説に基づいて検証方法を立案し、立案した実験の結果を予想する」という一連の展開の一つ一つを関連付けて考えさせる活動を授業において仕組んだ結果、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する問題【3(2)】では正答率が73.3%(全国47.7%・県52.6%)で、全国平均や県平均を20ポイント以上上回った。 ・太陽の1日の動きと位置の変化とそれに合わせた光電池の位置や向きを適切に選ぶことができるかどうかを見る問題【3(4)】では、正答率41.1%(全国41.9%・県45.5%)で、平均を若干下回っている。 ・一度に流す水の量と棒の様子との関係から、より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるかどうかを見取る問題【2(3)】では、全国平均(20.1%)及び県平均(22.2%)は上回ったものの正答率38.9%に留まった。

重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
<p>【課題1】 太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を、目的に合ったものづくりに適用する。(正答率41.1%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽の動きなど、学年の学習内容に応じて、繰り返し系統的に指導を行い、確実な定着を図る。 ・理科で学習したことが生活に生かされていることを実感できるようにする。 	<p>理科を学んでよかった！ ～生活につなげて～</p>
<p>【課題2】 一度に流す水の量と棒の様子との関係で、棒が多く倒れる現象について、水の量との因果関係を理由を付けて説明すること。(正答率38.9%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理科的用語を用いて、実験結果から考えた考察を自分で書かせる。 ・授業のスタートは、「理科クイズ」を行い、基礎的な内容や、理科的用語を確実に習得させる。 	<p>考察を自分で書こう！ ～キーワードを使って～</p>

平成31年度 全国学力・学習状況調査 数値目標
県平均+3P

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	5年 町学力調査過去問題	全学年 町学力調査過去問題		5年 町学力調査過去問題	全学年 CRT学力調査	4年・基礎・基本定着状況調査過去問題 5年・全国学力・学習状況調査過去問題	
目標値	通過率50%	通過率55%		通過率60%	町平均+1P	通過率65%	
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	5年 町学力調査過去問題	全学年 町学力調査過去問題		5年 町学力調査過去問題	全学年 CRT学力調査	4年・基礎・基本定着状況調査過去問題 5年・全国学力・学習状況調査過去問題	
目標値	通過率50%	通過率55%		通過率60%	町平均+1P	通過率65%	
実施後数値							

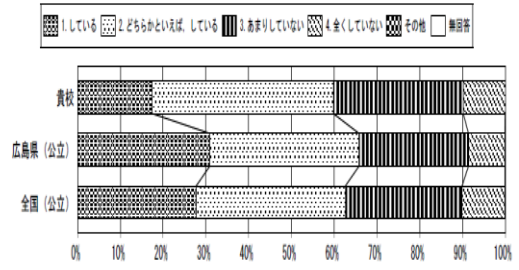
平成30年度 指導方法等の改善計画について【質問紙】

海田南小 学校

(全国学力・学習状況調査 質問紙)

(1)生活・学習

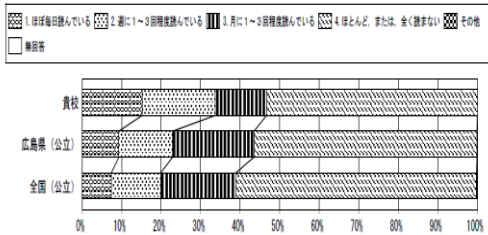
家で、学校の予習・復習をしています



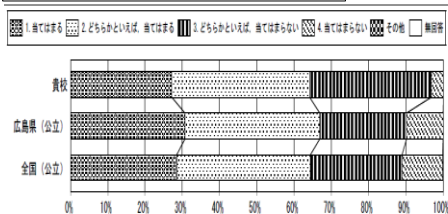
児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
宿題のように、出された課題については取り組むことができても、自分から積極的に予習・復習をしたり、課題を見付けて解決しようとしていることができる児童は多くない。(質問12:家で、学校の授業の予習・復習をしている児童:59.8%)	予習・復習の仕方を具体的に示し、初めは宿題等で指導をすることで、何をどのように行っていくのか、またその楽しさや達成感を味わわせていく。	全学年	4・5・6年生週1回提出する児童80% 1・2・3年生2週間に1回提出する児童80%	予習・復習の仕方を具体的に指導し、児童に予習・復習に取り組み、ノート等で提出させる。	2月		

(2)教科

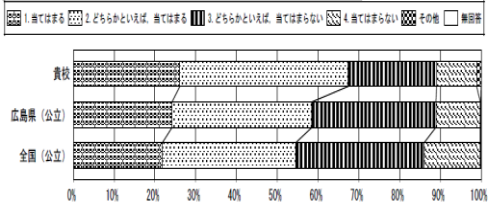
新聞を読んでいますか



算数の授業で学習したことを普段



理科の授業で、自分の考えをまわり



児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
新聞をほとんど、または全く読まない児童は、全国や広島県よりも割合が少ないにもかかわらず、本校においても53.3%いる。インターネット等の普及により新聞を購読しない家庭の増加も考えられるが、社会事象に興味をもっていない児童も多い。(質問25:新聞を毎日もしくは週1~3回読む児童:33.7%)	朝読書の時間を生かし、新聞に触れる機会を設けていく。実態に応じ、読む、興味のある記事を切り抜き線を引く、感想を書く、感想を交流するなど、新聞を生かした取組を行う。	全学年	月1回以上の取組90%	月に1回以上、朝読書の時間に、新聞を活用した取組を行う。	毎月月末		
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを余り考えていない児童が32.6%と全国や広島県よりも多い。算数と日常生活との関連性は理解しているが、活用しようとする児童は少ない。(質問32:算数の授業で学習したことを普段の生活で活用できると考える児童64.2%)	授業後の児童の振り返りを、生活との関わりを意識させて書かせる。教師は生活と結びついた単元開発を行い、答えを導く過程を大切に授業づくりを行う。	全学年	1単元あたり、1回以上の記述80%	授業後の児童の振り返りにおいて、生活と結びついた記述をしている児童の割合。	各単元末		
理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている児童は、全国や広島県よりも高いが、根拠を明確にして自分の考えを積極的に発言する児童は未だ少ない。(質問45:考えを説明したり発表したりする児童67.4%)	これまで取り組んでいる「理由セット」に加えて、発表を聞く児童には「質問力」を高める指導を行う。メモの取り方を工夫し、記録する力を高める。	全学年	児童アンケート75%	児童へのアンケートにおいて、質問力に関する項目と、メモの取り方の工夫に関する項目の肯定的割合。	2月		